

# 《理学療法やまぐち 投稿規程》

## 1. 本誌の目的

- ①一般社団法人山口県理学療法士会会員に寄与する理学療法学および関連する分野の研究を公表し、理学療法学を発展させる。
- ②理学療法士の卒後継続教育に資する教育的な論文を掲載する。
- ③理学療法の発展に関する記録や資料を掲載する。

## 2. 記事の種類

- ①研究論文（原著）：新規性および独創性があり、明確な結論を示した論文。
- ②症例研究：症例の臨床的問題や治療結果について科学的に研究を行い、考察を行った論文。
- ③短報：研究の速報・略報として簡潔に記載された短い研究論文。
- ④その他：システムティックレビュー、症例報告、実践報告、調査報告など編集委員会で掲載が適切と判断された論文および記事。（なお、症例報告とは症例の治療および経過などについて論理的に提示し、考察を行ったもの。実践報告とは、理学療法の研究・教育・臨床等の実践の中で、新たな工夫や介入、結果等について具体的かつ客観的に情報提示し、その内容が有益と判断されたもの）

## 3. 投稿者の資格

本誌への投稿は、原則として山口県理学療法士会会員とする。なお編集委員長の権限により会員外の著者へ投稿を依頼する場合もある。

## 4. 投稿原稿の条件

投稿原稿は、他誌に発表、または投稿中の原稿でないこととし、本規程および執筆規程にしたがって作成すること。

## 5. 投稿承諾書

著者の論文への責任および著作権譲渡の確認のため、別紙の投稿承諾書に自筆による署名をして提出すること。

## 6. 利益相反

利益相反の可能性のある事項（コンサルタント料、株式所有、寄付金、特許など）がある場合は本文中に記載すること。なお、利益相反に関しては日本理学療法士学会が定める「利益相反の開示に関する基準」を遵守し、利益相反がある場合には別紙の利益相反自己申告書に記載し提出すること。

## 7. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は、一般社団法人山口県理学療法士会に属する。また、本誌に掲載された論文は総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」でオンライン公開される。

## 8. 研究倫理

ヘルシンキ宣言および厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」などの医学研究に関する指針に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。また、研究にあたり、所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会ないしそれに準ずる機関の承認を得ることを推奨し、承認が得られている場合には倫理審査委員会名および承認番号（または承認年月日）を記載すること。症例報告においては症例の個人情報に特定されるような記述を避けること。また所属施設において個人情報保護に関する規定が設けられている場合には、所属施設の規定に従って原稿を作成すること。

## 9. 引用・転載の承諾

他著作物からの引用・転載に関しては、著作権保護のため原出版社および原著者の承諾が必要である。予め承諾を得るとともに投稿時に承諾書を提出すること。

## 10. 原稿送付方法、連絡先、締め切り

### 1) 原稿送付方法

下記アドレスにPDF化した原稿ファイルを電子メールで送付すること。なお投稿原稿は表紙・本文・図表のファイルを1つのPDFファイルにまとめて送付すること。投稿原稿の作成には山口県理学療法士会ホームページ

に掲載されている投稿原稿フォーマットを使用すること。投稿承諾書・利益相反自己申告書については署名の上、PDF化したファイルを送付すること。以下のファイルが揃っていることを確認すること。

- ①投稿原稿（表紙・本文・図表）
- ②投稿承諾書
- ③利益相反自己申告書
- ④投稿論文チェック表

投稿する場合には、メールタイトルに「山口県理学療法士会学術誌投稿」と記し、メール本文中に投稿者氏名、所属施設名、所属施設住所、所属施設電話番号、連絡先（E-mail アドレス）を明記すること。原稿書式など詳細は執筆規程に定める。

## 2) 原稿送付・問い合わせ先

〒750-8520 下関市向洋町 1-13-1

「山口県理学療法士会学術誌」 担当：月城一志

E-mail : h.r.market@outlook.jp

## 3) 原稿締切

2022年9月30日（金） 正午まで（なお原稿に不備があった場合には、投稿論文を受理できませんので、早めの投稿をお願いします。場合によっては翌年の受理となることをご了承ください。）

## 11. 原稿の採択

原稿の採否は2名の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。投稿論文について「採択」・「修正後に採択」・「修正後に再査読」・「不採択」を決定し、査読結果を電子メールで通知する。修正を求められた場合には、1ヵ月以内に修正稿を再提出すること。修正稿の再提出にあたっては修正箇所を明記した文書を添付すること。提出期限を超過した場合は新規投稿論文として扱うこととする。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

## 12. 校正

著者校校正は原則として1回とし、誤字脱字を除く文章および図表の変更は原則として認めない。学術誌掲載時の図表配置等のレイアウトは編集委員会で修正することがある。PDFファイル化した一次校正原稿を出版社から電子メールで著者へ送付し、確認を行う。著者は校正原稿を確認または修正しPDF化したものを電子メールで返送すること。

## 13. 掲載に関する費用

規定の分量の範囲内までは無料掲載とする。

## 14. 附則

本投稿規程の改廃は山口県理学療法士会理事会の決議による。

（2021年9月11日作成）

# 《理学療法やまぐち 執筆規程》

## 1. 論文の構成

1) 標題 (表題) : 内容を具体的かつ的確に表し, できるだけ簡潔に記載する. 原則として略語・略称は用いない. なお 30 字以内のランニングタイトル (簡略標題. 標題を短くしたもので, 標題よりもさらに主題に絞り込んだもの. 標題が 30 字以内であれば同じでもよい) を記載する.

2) 著者名 : 共著者は必要最小限にとどめ, いずれも山口県理学療法士会の会員であることを原則とする. 審査開始後の著者の変更は原則認めない. 理学療法士以外の他職種に限っては共著者として含めることを認めるが, 氏名の後に職種を付記すること.

【例】医師 (MD), 看護師 (Ns), 作業療法士 (OT), 言語聴覚士 (ST) 等

3) 要旨 : 「目的」「方法」「結果」「結論」について項を分けて簡潔に記載する. また, 研究論文 (原著), 短報以外の記事の種類の記事の論文においては, 著者の判断で項目名を変更してもよい. 要旨は 400 字以内とする.

4) キーワード : 論文の要点を示す単語を題名・要旨から 3 つ抽出する.

5) 本文 : 本文は原則以下の項目に沿って本文を構成すること. ただし, 研究論文 (原著), 短報以外の記事の種類の記事の論文においては, 著者の判断で項目名を変更してもよい.

①はじめに (序論, 緒言)

研究の背景, 臨床的意義, 研究の目的, 取り扱っている主題の範囲, 先行研究との関連性の明示などを記述する.

②対象

および方法用いた研究方法について第 3 者が追試できるように記述する. 倫理的配慮も記述すること.

③結果 (成績)

研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する. データは, 検証, 追試を行いやすいように図 (グラフ) よりも表にして数値で示す方が望ましい.

④考察 (分析)

結果の分析・評価, 今後の課題, などを記述する.

⑤結論

研究で得られた結論を 200~300 字で簡潔に記述する.

⑥利益相反

利益相反の有無について記載する.

⑦謝辞

著者資格には該当しない研究への貢献者については謝辞に記載する.

6) 文献 : 引用文献のみとし, 参考文献は記載しない.

## 2. 投稿原稿の構成

表紙, 本文, 図表で構成する. 表紙には標題, ランニングタイトル, 著者情報, 和文要旨 (400 字程度), キーワード (3 つ), 文字数 (図表は 1 個を 400 字として換算) を記載すること. 原稿書式は A4 サイズ, 余白上下左右 25mm, 12 ポイント明朝体とし, 本文には行番号およびページ番号を必ず記載すること.

## 3. 原稿の規程分量

研究論文 (原著), 症例研究, システムティックレビュー : 12,000 字以内 (表紙・要旨・文献・図表を含む).

短報 : 6,000 字以内 (表紙・要旨・文献・図表を含む).

その他 : 10,000 字以内 (表紙・要旨・文献・図表を含む)

図表は 1 個を 400 字として換算すること.

## 4. 本文の構成

論文には和文の要旨 (400 字以内) をつけること.

## 5. 図表

図・写真・表 : 図・表は本文に出てくる順に, それぞれ一連番号をつける. グラフィック表現および写真は図

に含める。図の番号および表題は図の下に、表の場合は表の上につける。必要がない限り表に縦線は使用しないこと。図・表の転載は投稿前に著者の責任で転載許可をとり、投稿時に許可書を提出すること。スライド図・表は投稿用に作成し直すこと。表・図（写真を含む）は1頁に1点ずつ記載すること。

## 6. 文献

引用文献は本文の引用順に並べる。本文中の文献引用箇所には、上付き文字設定を用い文章文字の右肩か著者名の右肩に型番号を引用順につけること。

【例】…過去に報告されている<sup>2)</sup>。一方、…山本<sup>3)</sup>らは…と報告している。

雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、西暦年号、巻、頁（最初～最終）の順に書き、単行本の場合は著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地、西暦年号、頁を記載する。文献名の省略は米国国立医学図書館の方法にしたがうこと。引用文献の著者氏名が2名以上の場合は最初の著者のみを記載する。

【例】

- 1) 山出宏一，他：歩行リハビリ支援ツール"Tree"を用いた歩行練習が脳卒中片麻痺患者の歩行練習距離と歩行能力に及ぼす影響。理学療法科学。2019; 34: 441-447.
- 2) Yamamoto S, et al.: Activation of different signals identified with glia cells contribute to the progression of hyperalgesia. Cell Mol Neurobiol. 2013; 33: 167-174.
- 3) 信原克哉：肩—その機能と臨床—（第3版）。医学書院，東京，2001，pp.156-168.
- 4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap4. In: Morrissy RT and Weinstein SL(eds): Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006, pp.97-112.
- 5) 名郷直樹：EBMの現状と課題，エビデンスに基づく理学療法活用と臨床思考過程の実際。内山靖（編），医歯薬出版，東京，2008，pp.18-38.
- 6) 厚生労働省ホームページ障害者白書平成23年度版。  
<http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h23hakusho/zenbun/index.html>（2011年12月19日引用）

## 7. 数量の単位

単位は原則として国際単位系（SI単位）を用いる。長さ：m，質量：kg，時間：s，温度：℃，周波数：Hz等。

## 8. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。和文要旨には略語は用いない。

【例】関節可動域（range of motion; ROM）

## 9. 機器名の記載法

機器名は、「一般名（会社名，製品名）」で表記する。なお，統計ソフトは「製品名，バージョン番号，会社名」とする。

## 10. 附則

本執筆規程の改廃は山口県理学療法士会理事会の決議による。

（2021年9月11日作成）